

# 特集号 創立70周年記念号

# 附中タイムス

発行所  
大阪教育大学附属池田中学校  
〒563-0026 池田市緑丘1丁目5-1  
☎072-761-8690  
印刷所  
あさひ高速印刷株式会社  
〒550-0002 大阪市西区江戸堀2-1-13  
☎06-6448-7521

## 創立70周年を迎えて 卒業生は10,977人に

### 時代を先取りする教育研究と実践を

十一月一日(火)、附中は創立七十周年を迎えました。昭和二十二年の開校以来、「自主・自律」の精神の涵養を校訓に、常に新しい教育の理想に燃え、様々な教育活動を展開し大きな成果を上げてきました。卒業生の数も一〇九七七になり、各界で活躍し、「附中は人材の宝庫」と呼ばれるまでになりました。創立七十周年を迎えた今、附中の良き伝統・文化を継承し、時代のニーズに答え、教育界のパイロットとして未来を見通した教育の研究と実践が期待されます。

本校は昭和二十二年四月十五日、大阪第二師範学校男子部附属中学校として創設されました。校舎は池田市五月山の麓、池田城址にあつた府立海外商業学校の

まだ旧陸軍のガラス工場の名残があとにみられ、大きな三本の煙突や工場の建物を改築した体育館は附中の名物になっていました。

昭和四十年から校舎等の大改造が進み、十年でほぼ現在の姿になりました。校名も学芸大学附属から教育学部附属、教育学部附属に改称され、学級数も九クラスから十二

クラスの中規模校となり、変化の激しい時代でした。

五十年代は校舎、設備等の物的環境を整える時代から、教育の中心、内容の層の充実や質的変換がはかられました。学習指導要領も「ゆとり」の方向に大きく改訂されました。「ゆとりある充実した学校生活」を目標に、本校独自の「WEC方式」による教育課程のもと、創造的な教育活動が展開され全国から大きな反響を呼びました。

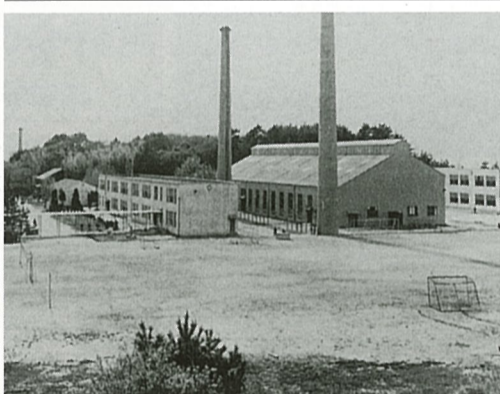
六十年代から平成七年にかけての十年は、人権・同和教育に根差し、共に学び、高めあうことを視点に「学ぶことの意義」や「人間として生きる意味」を求めた実践が次々と展開されました。平成八年からは、変化の激しい国際情勢の中で加速

度的に進む国際化・情報化に対応するための新しい学校文化や教育システムの開発、創造をめざして教育改革が進められました。現在は平成十三年の六月八日の附属池田小学校児童殺傷事件を教訓に、学校の安全・安心と国際化・情報化への対応を重要な課題として位置づけ、池田キャンパス小中高の連携を強化して様々な教育研究と実践が推進されています。



「思いを引き継ぐ榉の並木」

～16、32、33期生の卒業記念樹が  
大きく成長し、今や池田キャンパスの名物に～



「エントツのある旧校舎風景」

～渋谷時代(昭和32～41年)～  
煙突の左は今の普通校舎  
2本の煙突の間に旧体育館が見えます

### 創立七十周年によせて

学校長 野浪 正隆



本校は平成二十八(二〇

二六)年度に創立七十周年を迎えました。昭和二十二

(一九四七)年四月に、大阪第二師範学校男子部附属

中学校として設置され、途中いくつかの名称変更を経て、現在の大阪教育大学附

属池田中学校に至っています。

す。本校は、大阪教育大学の教育研究校・教育実習校として、中等普通教育を施す学校として、地域の教員研修校として、大きな成果を上げてきました。

現在は、IT機器の教育利用を推進し、インターナショナル・パカローア(IBC)のモデルイヤープログラム(MYP)の候補校となり、新しい教育の形を取り入れています。しかし、その根底にあるのは学習指導要領に準

ていた。平成十三年六月八日に起きた附属池田小学校児童殺傷事件以来、安心・安全な学校作りを心掛けてきました。生徒自らが安全意識を高め、学校安全活動を継続していること、教職員・PTA会員・地域の皆さんが力

を合わせて学校安全活動を継続していることが評価された結果、平成二十六年にインターナショナル・セルフ・スクール(ISS)の認証を受けました。続いて、平成二十七年にセルフ・ティ・プロモーション・スクール(STPS)の認証も受けました。

これからは、学校安全活動を継続し、ISS・STPSの再認証を受けていきます。

附属池田中学校は、附属池田小学校・附属高等学校池田校舎と隣接し緑豊かな環境にあります。坂の櫛は大きく育ち、春夏秋冬それぞれに趣深い風景を作ります。

また、坂の突き当りにあつたプレハブ造りの「附高食堂」は耐震に問題があつて取り壊し、芝生広場に新しい食堂を立てました。ご利用ください。

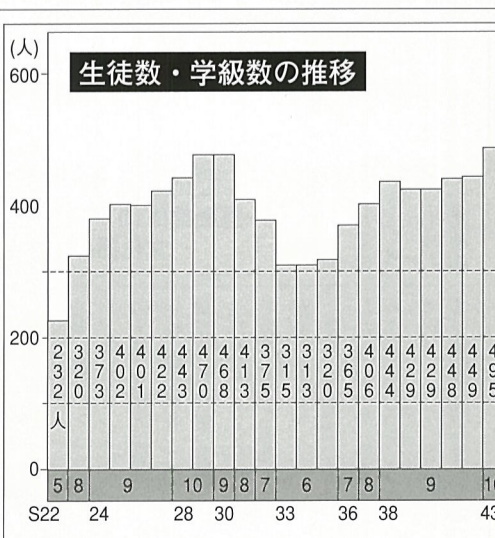
創立七十周年記念行事として「芸術鑑賞会」(和太鼓の「打打団天鼓」のコンサート)・「先輩の授業を受ける」を開催し、今年の体育大会・文化祭も記念行事になります。それら創立記念行事の締めくくりとして、十一月五日(土)の午後一時半から池田市民会館アゼリアホールで創立七十周年を祝う式典と祝賀会を行います。人間七古来稀なり。人間と違って学校は衰えることはありません。お祝いください。



「なつかしい城山時代の玄関」

赤い三角屋根の山小屋風でした(昭和28年頃)

「なつかしい城山時代の玄関」赤い三角屋根の山小屋風でした(昭和28年頃)



### わが校七十年の歩み

2面：昭和20年代 創成期  
城山の地で誕生

3面：昭和30年代 拡充期  
渋谷の地へ移転

4面：昭和40年代 大拡張期  
新校舎の建設

5面：昭和50年代 充実期

6面：昭和60年代 転換期  
ゆとり教育で豊かな人間性

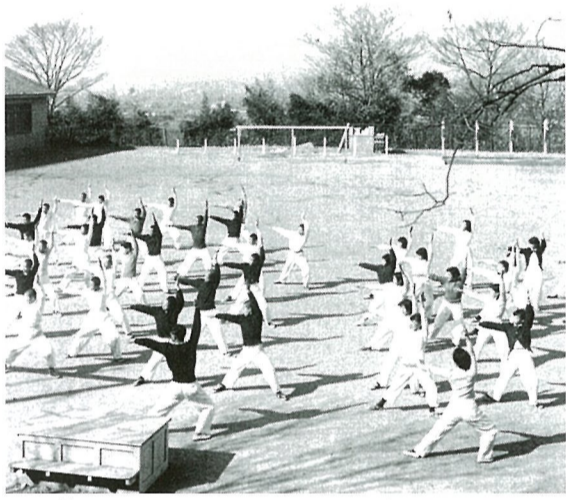
7面：平成の新生期  
個性化・自己教育力の育成

8面：平成10年代 変革期  
国際化・情報化への対応  
池田キャンパス小中高の連携強化

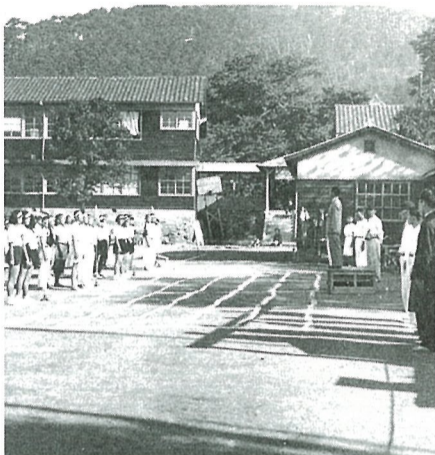
31年	30年	29年	28年	27年	26年	25年	24年	23年	昭和22年
酒井 美隆	渡辺 清一	前野 博	藤田 政雄 校長 山崎 武司	藤田 政雄 主事	福島 新作 教頭	梶山隆四郎 主事	梶山隆四郎 主事	梶山隆四郎 主事	梶山隆四郎 主事
12 4 建築地鎮祭 下渋谷(現在地)新校舎	1 4 正面大橋架工、校舎改築 工事	9 5 校舎一部白蟻の害により 一年生二学期中大学で授 業	7 7 6 5 豪雨校庭一部崩壊 校舎屋根ふきかえ 高野山林間学舎始まる 全校生豪雨により五日間籠城	11 5 4 北校舎生徒昇降口竣工 平和条約並びに憲法発布 五周年記念式挙行 創立五周年記念式典	11 6 4 2 研究発表会「僕教育について」 校名改称 大阪学芸大学 附属池田中学校 第三校舎改築工事完了 研究発表会「我が校の改訂カリキュラムについて」	11 10 5 4 10 7 6 3 第一回卒業式 大阪学芸大学開学 校名改称 大阪学芸大学第二 師範学校池田附属中学校 新カリキュラム研究発表会	10 7 7 4 附中PTA結成式 附中タイムス第一号発刊 四国白鳥海岸で臨海学校 南校舎二教室起工式	10 7 6 4 第一回体育大会 「自治新聞」発刊	10 7 6 4 大阪第二師範学校男子部附 属中学校として開校式挙行 第一回教育実習開始 「自治新聞」発刊
長期に入る	完成	事件	日本へ復帰	定締結	条約調印	金閣寺焼失 朝鮮戦争おこる	教育委員会 発足	公布	六三制教育 実施 教育基本法

# の歩み①

～渋谷の地へ



「附中体操ではじまる体育の授業」



「城山時代の運動会の開会式」  
—南側の運動場から五月山を望む—

# 誕生

## 「城山」の地

昭和二十二年四月十五日、本校は池田市内を見おろす池田城跡に誕生しました。赤い屋根の山小屋風の正門から運動場へ下りると、狭いグラウンドを囲むようにコの字形の校舎が建っていました(3面の図参照)。この頃の教育は、教師の手づくりのカリキュラムで、今の総合学習のような生活経験学習が社会科をコア(核)として展開されてきました。城山の十年は生徒会をはじめ、いろいろな組織づくりが進み、今日の附中の基礎が築かれた時代でした。

徒の空腹を満たしたこともあったそうです。校舎の北側は、松ヶ谷川の急な崖で、天然の濠となり、約五十メートルの谷を挟んで、五月山と対峙していました。西側の急な崖には民家が建ち、その間の石段の小道を登りつめると通門がありました。

### 開校

昭和22年4月15日

大阪第二師範学校  
男子部附属中学校  
～海外商業学校と同居～

昭和二十二年四月十五日、本校は由緒ある池田城跡で産声をあげました。当時は大阪府立海外商業学校がこの地にあり、二つの学校は同じ敷地内に同居していました。この二つの学校は同じ校時、同じ行事で運営され、昭和二十四年に海外商

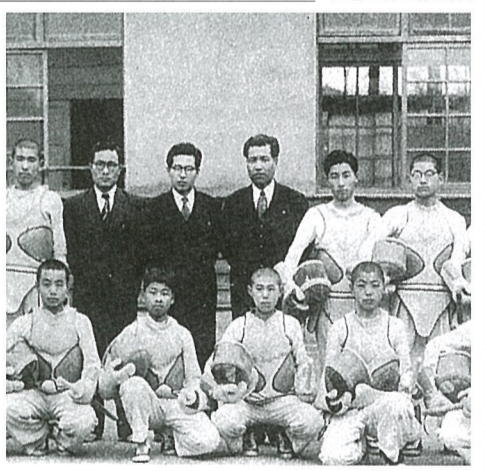
# 昭和20年代 創生期

業学校が閉校されるまで、その形態が続きました。生徒数は、二年生が海外商業学校の生徒百十名に附属小学校の高等科からの二十一名を加え一三二名、新しく入学した一年生が九九名、合計二三二名でした。六月には自治会が発足し、七月には附中タイムスの前身「自治新聞」がすでに発刊されています。

### 同好会の充実

昭和25年

生徒数が400名を突破し、クラブの総称である校友会が同好会に変わり、部の数も増え充実してきました。



「昭和29年、新設された撓部」  
後に剣道部となり平成3年まで続く

### 校名改称

昭和24年

大阪学芸大学大阪第二師範学校池田附属中学校に改称

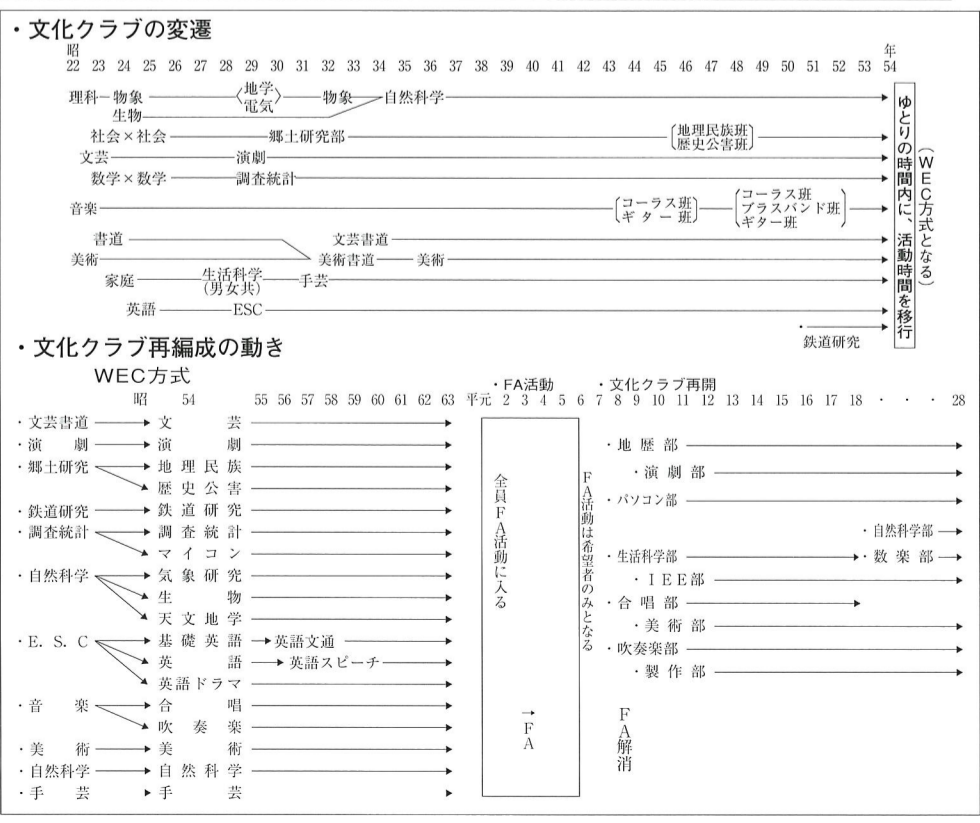
昭和二十四年の六月に大阪学芸大学が開校し、七月三十一日には、本校の校名も改称されました。「大阪学芸大学大阪第二師範学校池田附属中学校」という長い名前が、これが二年近く校名として使われてきました。工事関係では、玄関前の橋が修理され、図書室も改



「生活経験学習」の発表の場面  
～教室では真剣さがみなぎっていた～  
昭和24年頃



「城山時代の先輩方」  
—2期生、昭和23年—



### 再び校名が改称

昭和26年

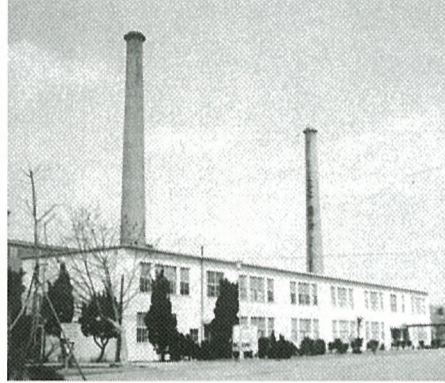
大阪学芸大学  
附属池田中学校に

この年、校名が再び改称され、大阪学芸大学附属池田中学校となりました。田中学校となり、主事が校長と改称されました。研究会がさかんに開催され、「我が校の改訂カリキュラムについて」独自の教育課程を創造しようとした。特に「僕」に関する研究発表会が異色でした。各種の展示会もさかんで、校内には美術や書道の力作がたくさん展示され、文化面での質の高さが好評でした。

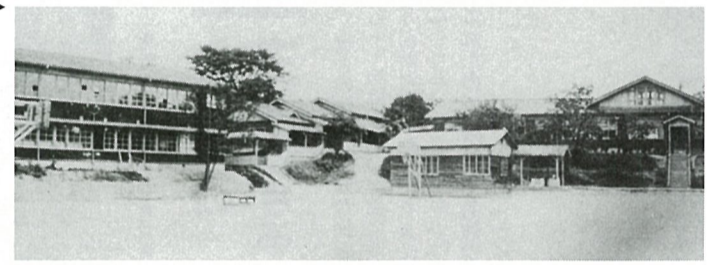
41年	40年	39年	38年	37年	36年	35年	34年	33年	昭和32年
奥村 和夫	月 棚瀬 昌亮	月	田中 耕三	月	渡辺 清一	月	酒井 美隆	月	
11 室・図書館 竣工	4 新校舎第一期工事(美・音・事務・教官室) 竣工	11 研究発表会「各教科における指導上の問題点」	11 校内電話新設	10 研究発表会「学力向上のための学習指導(教科指導上)」	10 研究発表会「学力向上のための学習指導(中学生)」	9 三附属交歓会始まる	8 台風六号田辺上陸 運動場荒れる	11 運動場整地完成 記念体育祭	11 国旗掲揚台(皇城会寄贈)
大革命	中国で文化相次ぐ	朝永振一郎 ノーベル賞	オリンピック 東京大会 東海道新幹線開通	三池炭鉱爆発 三池炭鉱 三池炭鉱 三池炭鉱	機 発事故	カラテレ 放送開始	婚 皇太子御成	勤務評定 対運動	南極観測隊 昭和基地建設

# わが校70年

## 城山で誕生(昭和22年4月15日)



「白亜の校舎(今の普通教室棟)」  
当時は学校建築のモデルとして来訪者が絶えなかった。まだ名物のエントツが立っている。昭和38年頃



創立当時の城山の校舎

### 校舎の移転

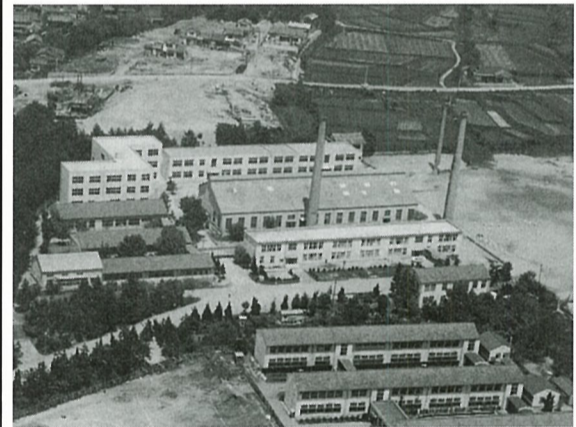
昭和32年4月  
渋谷の旧陸軍のガラス工場跡地に

創立以来十年、校地が手狭な上、校舎が白蟻の害に悩まされ、校地の拡張が移転かと決断しなければならなくなりました。結局、これからの発展を見越して、下渋谷の地に移転することにになりました。

当時、この下渋谷の用地は東京陸軍造兵廠大宮工場という特殊レンズを作っていたところで、終戦後、近畿財務局の管理下にあり、文部省に移管されるとの約束のもとに使用が認められました。工事の始まった昭和三十一年、この用地には旧工場のトタン張りの建物、大きな四本の煙突、がん強な旧変電所ビル、ガラス原料を粉砕する巨大な引き臼の台座などがありました。用地は緑が豊かで、松やヒマラヤ杉の大木が森を形成し、学校の周囲には畑や水田が広がっていました。

### 附属高校の創設と 附中の学級減

昭和三十一年四月、全国第二番目の附属高校が大阪学芸大学に設立され、この池田にも池田校舎が置かれることになりました。校舎は、最初、池田市立城南中学校跡の建物を用い、本校からの進学者三十一名と公立中学校からの入学者による一年生二クラスで発足しました。



「昭和30年代後半の中高のキャンパス」  
2本のエントツの下が今の普通教室棟。上が旧体育館、さらに上が附高校校舎。下の2棟は当時の附小校舎

# 昭和30年代 拡充期

創立十一年目を迎えた昭和三十三年四月、それまでの城山から新天地、渋谷へ。鉄筋二階建てのスマートな校舎(現在の普通教室棟)と広い運動場は、城山時代とは比較にならないほど立派なものでした。この三十年代は世の中の景気も少しずつ回復し、本校の施設、設備も、徐々に充実していった拡充期の時代です。教育研究も盛んに行なわれ、年一回の公開研究協議会や教科の学内研究会も行われました。



「16期生と生徒会の榊植樹」  
～32期生、33期生に引き継がれ  
今は緑のトンネルに～昭和39年

### はじめての三附中交歓会

～昭和35年～  
服部緑地の陸上競技場で?!

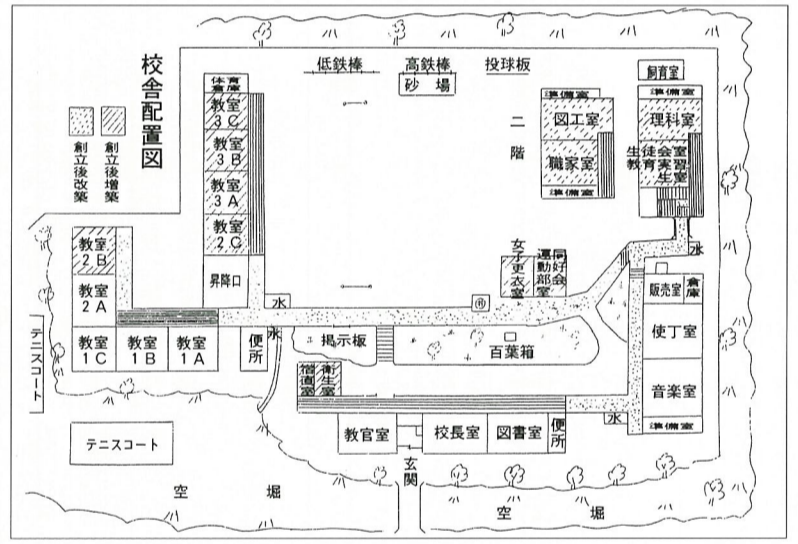
昭和三十五年には、はじめて三附属の交歓会がスポ1の試合を通じて行なわれ、お互いの交友を温め合いました。記録によると生徒会行事として位置づけられ、企画、運営はすべて生徒の手によるものでした。場所は服部緑地の陸上競技場で実施されたようですが詳細は不明です。ご存じの方はご一報ください。毎年全学で行われていたこの行事も今は、三年に一度、二年生の学年で実施されるのみになりました。

昭和三十九年三月に十六期生が植えたケヤキの木は、その後、三十二年生、三十三期生が引き継ぎ、現在は「ケヤキ坂」の名称で池田キャンパスの名所になっています。成長したケヤキ並木は、夏には緑のトンネル、秋には色とりどりの紅葉で我々の目を楽しませてくれます。

### 先輩から後輩へ 引き継がれた 植樹のバトン

～30本の榊～

昭和三十九年三月に十六期生が植えたケヤキの木は、その後、三十二年生、三十三期生が引き継ぎ、現在は「ケヤキ坂」の名称で池田キャンパスの名所になっています。成長したケヤキ並木は、夏には緑のトンネル、秋には色とりどりの紅葉で我々の目を楽しませてくれます。

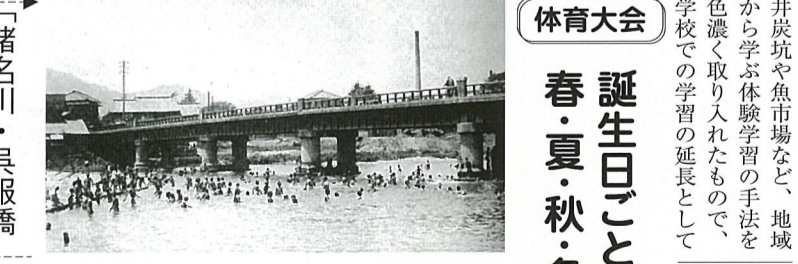


### 臨海学舎 水泳場で はじめは猪名川の

夏の行事であった水泳訓練は、初期の頃は猪名川の呉服橋の下の水泳場で実施されてきました。五月山をバックに、男子はフンドシ、女子は思い思いの水着で、流れをうまく利用して訓練に励んでいました。二十六年頃から中止となりました。

### 20年代の学校行事

昭和三十年に再開。場所も鳥取、天の橋立、淡路島、南紀白浜と点々と変わりました。昭和六十二年まで続いた。しかし、天候と危険のリスクが大きいと、翌年からは廃止になりました。



### 誕生ロケットに 春・夏・秋・冬の四チームで

秋の体育大会は、特に力を入れてきた行事でした。狭いグラウンド故、会場の変遷は苦難の歩みでした。創立から二十六年までは師範学校(旧池田分校、今はない)のグラウンドで行われていました。学級数が不揃いでしたので、一・三年生までを生徒の誕生日毎に春・夏・秋・冬の四チームに分けて点を競いました。

### 体育大会

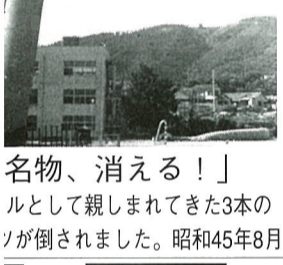
井炭坑や魚市場など、地域から学ぶ体験学習の手法を色濃く取り入れたもので、学校での学習の延長としてと泊数が減っています。

51年	50年	49年	48年	47年	46年	45年	44年	43年	昭和42年
緩井 誠昌 石川 喜一	西原 靖	松浦 伯夫	山田 輝吉	松本賢三	奥村 和夫	棚瀬 昌亮	川康成 ノール賞 小笠原日本 へ復帰	川康成 ノール賞 小笠原日本 へ復帰	元首相・ 吉田茂国葬 ヨロツパ 共同体発足
11 10 7 創立三十周年記念式典 中庭教材園(阜城会寄贈) 記念誌発行	12 5 1 1 第一回耐寒登山(五月山) 新幹線利用の修学旅行開始 中高下水道工事完成	9 5 1 耐寒訓練(マラソン)廃止 プール西側空地整備完了 研究発表会「モラールを 高める学習指導」	6 4 4 2 8 4 普通教室改修工事完了 「つくしの像」建立 校名改称 大阪教育大学 教育学部附属池田中学校 テニスコート完成 研究発表会「モラールを 高める学習指導」	8 5 4 旧体育館解体	8 校庭の名物三本煙突撤去	9 7 6 正門ケヤキ坂下に完成 プール竣工 第一回水泳大会	5 4 研究発表会「中学校における 実験・実技指導の問題点」	11 11 6 1 「教育実習の手引」発行 校名改称 大阪教育大学 附属池田中学校 第三期工事(技・家・理)竣工 創立二十周年記念式典 玄関築山(阜城会寄贈)	

# の歩み②

## 司性の回復へ

校舎の建設、整備が終わると、次は校庭の整備に取りかからなければなりません。まず、手がつけられたのは池田附中名物のシンボルの大煙突倒さる



名物、消える！  
ルとして親しまれてきた3本のノが倒されました。昭和45年8月



「校舎の建築ラッシュ」  
一期工事(教官室、美術室、音楽室  
今の玄関部分はまだない) 昭和41年4月

# 高度経済成長 と 校舎の増改築

昭和三十九年の東京オリンピックは、新幹線をはじめ名神、東名高速道路開通といった交通革命をもたら

# 昭和40年代 大拡張期

この十年間で特筆すべきは、一学年三クラス体制が四クラス体制になったこと

## 今も昔も 変わらぬものは

- 一、校内美化に努めること
- 二、登・下校の態度をよくし、時間厳守のこと
- 三、朝礼の態度をよくすること
- 四、授業態度をよくすること
- 五、上げき、下げきの区別をつけよう

## 新校舎の建設 と テニスコートの造成

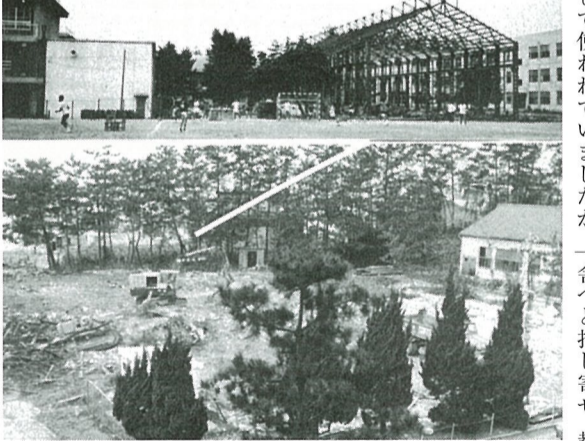
四十二年四月、新校舎一期工事現在の美術、音楽、教官室などが完成。続いて、校長室、図書室などの二期

## 五力条の心得

岸花の印象は強烈で、その畦道を生徒たちは近道するために一列に並んで歩いた

# 昭和50年代 充実期

この年代は、三十年振りといわれる教育課程の大改革と、それへの対応、とりわけゆとり一時間の活用が最大の課題となりました。本校では、五十三年度より基礎



「世代交代：新旧体育館工事」  
一場所は、どこだかわかりますか?! 昭和45~46年

## 荒堀川の 大洪水

昭和四十二年七月九日、梅雨前線に刺激された集中豪雨が池田を襲い、運動場北端の荒堀川の暗渠の入口を土砂や流木がふさいでしま

## 「新築の校舎が浸水！」

昭和四十二年七月の荒堀川氾濫。上浸水という信じられない災害となりました。教職員、生徒全員で泥を掻き出し、床を水洗いし、必死で復旧活動を行うという出来事がありました。

## 8年がかりの 難工事コート

昭和41、48年この頃は附属側コートのフェンスは未だない

## 校名の改称

- 昭和42年 8月 大阪教育大学附属池田中学校
- 昭和47年 6月 大阪教育大学教育学部 附属池田中学校

## 待望のプール 新体育館・ 武道館完成

四十四年七月には、待望のプールが完成し、大学や附属小学校のプール借用から開放されました。九月に

## 「四学級の 中規模校に

昭和四十二年六月一日には四回目の校名改称があり、大阪教育大学教育学部附属池田中学校となりました。

## 「待望のプール完成」

昭和44年7月  
スタート台は附小側にあり西から東へ向け泳いだ



」の活動

61年	60年	59年	58年	57年	56年	55年	54年	53年	昭和52年
12 11 10 4 2 1 附中タイムス一五〇号発刊	11 10 3 3 校舎周囲アスファルト舗装	11 10 6 4 「みどりの学び舎」発刊	8 バレーボールグラウンド完成	11 8 7 6 研究発表会「ゆとりと充実した教育活動の構想と実践」	10 8 2 2 校内ビデオシステム完成	8 7 教官夏期研修会始まる	11 9 4 4 「ゆとり菜園」始まる	9 10 8 6 みどりの学び舎周りにマシオン建設の動き	9 10 8 6 高める学習指導
山際 延夫 中井 稔	山際 延夫 中井 稔	山際 延夫 中井 稔	山際 延夫 中井 稔	加藤 章三	加藤 章三	加藤 章三	綾井 誠昌 古屋敷 侃	綾井 誠昌 古屋敷 侃	岡田 克己
グラウンド大改修完了 校舎内時計全面取り替え 文部省同和教育研究指定校に 岩石園・野草園(皇城会寄贈) 創立四十周年記念式典	国旗掲揚台完成 中庭池補修工事完成 校舎周囲アスファルト舗装	プール全面改修 国旗掲揚台完成 中庭池補修工事完成 校舎周囲アスファルト舗装	生徒用ロッカー木製に 旧変電所(倉庫)修理 「みどりの学び舎」発刊 研究発表会「教科指導に おけるゆとりと充実」	三宅島大噴 火 ロッキード 事件で田中 元首相有罪 新札登場 グリコ・森 永事件 筑波国際科 学技術博	東北・上越 新幹線開通 イ・イ戦争 パワロ・ロー マ法王来日 福井謙一 ノーベル賞	モスクワ五 輪米日な どポイコッ ト 正門改修完成 教官夏期研修会始まる	上越新幹線 世界最長大 清水トンネ ル貫通 「ゆとりと菜園」始まる 教育課程研究発表会「ゆとり の時間の活用-WEC方式」	日中平和友 好条約調印 成田国際空 港開港	新記録七五 六号ホーム ラン

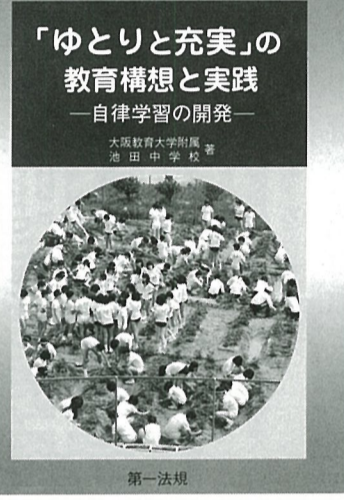
# わが校70年

## 「高度経済成長」～「人

### 豊かな人間性を指向する 自律性開発の教育とまどりの学び舎

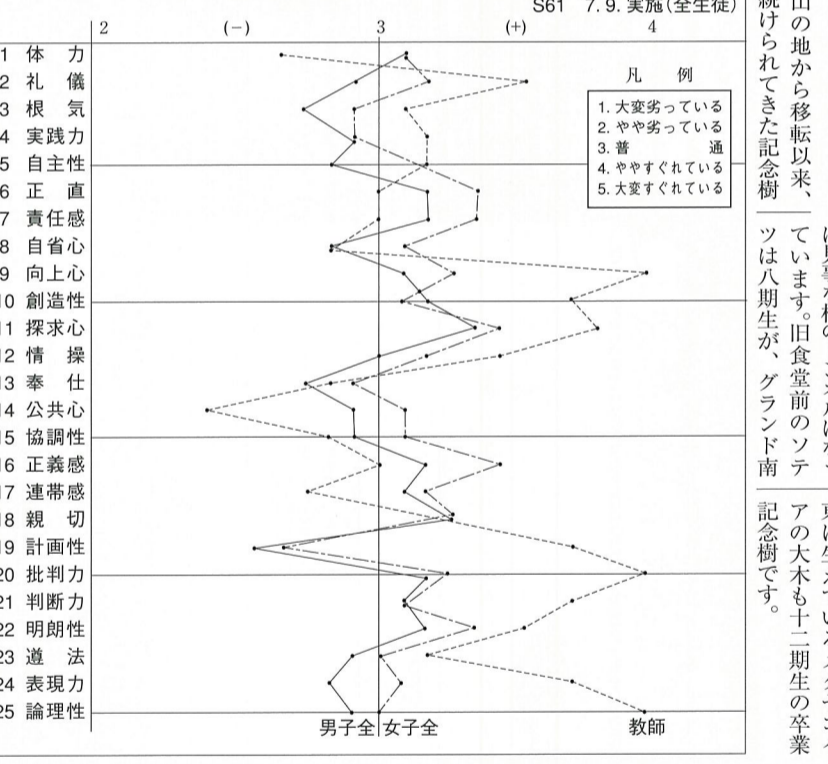
物の豊かな時代になり、物質欲を書き立てられたのは抵抗力の弱い子どもたちでありました。教育の中で豊かな心を取り戻す努力が必要になり「豊かな人間性」「人間性の回復」が叫ばれるようになりました。本校ではこの五十年代の教育では、人間性の涵養を中心理念に据えて、全ての教育課

### 本校発行の著書



「一人一鉢の菊づくり」  
本校のゆとり活動(WEC)の内の「W」の活動で奉仕、働く喜びの体験をめざしました。  
— 昭和56年 —

本校生徒の「豊かな人間性」のファクターについての調査(生徒対象) S61 7.9.実施(全生徒)



も立派な財産となりました。校門からのケヤキ坂の櫛は十六期生が昭和三十九年三月の卒業式に植えたのがはじまりで、その後三十二期、三十三期生が引継ぎ、今では見事な櫛のトンネルになっています。旧食堂前のソテツは八期生が、グラウンド南

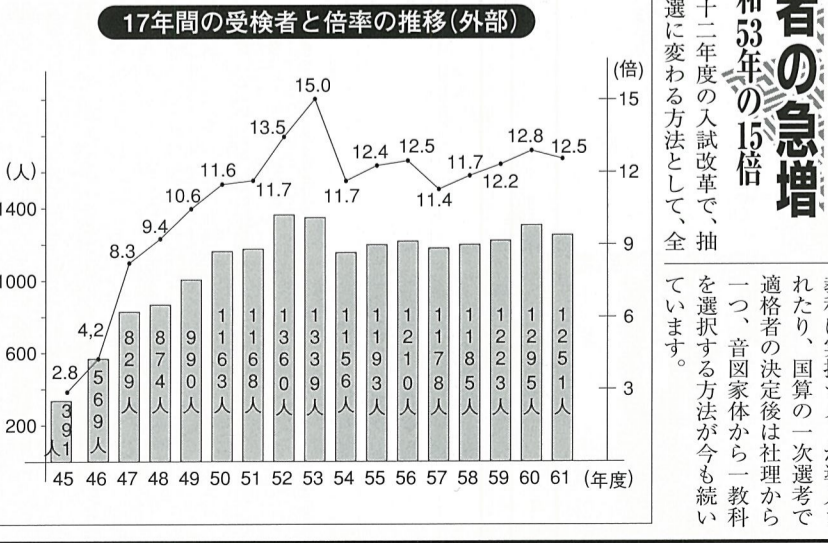


「運動場は受検生と保護者でいっぱい」  
昭和58年度の入試風景

### 受検応募者の急増 ピークは昭和53年の15倍

五十年代の本校教育の大きな出来事として、入学選考に関するものが挙げられます。受検者の数が急増したのです。昭和四十五、四十六年頃から入学志願者の数が急増し、倍率もこれまででは二・三倍といったところでしたが、四十六年度に四倍を超え、四十九年度には十倍を超すといった異常な状態になりました。これは本校だけの傾向ではなく全国的な傾向でありました。文部省では四十四年度から国立大学の附属学校での抽選制の導入を指示してきており、本校でもその年から独自の抽選方法を取り入れていました。抽選制は各方面からのさまざまな反応を感じながらも平成十一年度まで続けられました。

東に生えているメタセコイヤの大木も十二期生の卒業記念樹です。

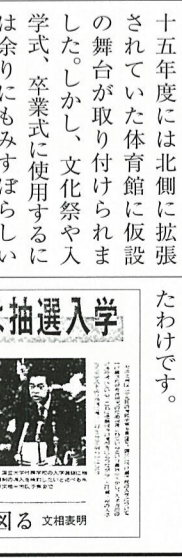


ゆとり活動の創設  
大反響。附中池田のWEC方式  
— 新学習指導要領への対応 —

五十年代の教育の大きな動きは、何と言っても、三十年振りといわれる教育課程の大改革と、それへの対応でした。とりわけ「ゆとり」の時間の工夫が最大の課題となりました。本校では、五十三年度より改定学習指導要領の基礎研究に入り、五十四年度から次々と創意活動を設定し、試行を重ねました。その基本方針は、これまでの教育活動が有効に利用すること、教

全教室に扇風機  
新バレーボールコート完成

学習環境の改善のため、昭和五十七には全教室に扇風機が設置されたり、五十五年には北側に拡張されていた体育館に仮設の舞台が取り付けられました。しかし、文化祭や入学式、卒業式に使用するには余りにもみすばらしいものでした。五十八年には運動場の東側に新しいバレーボールコートが完成しました。それまで、ここは池田市の市有地でした。附属小学校前の道路が拡張され、附小の校地が一部削りとられることになりました。池田市、附小、附中の三者で土地交換が行われた結果、プール南側にあった附中の土地を、附小に渡すかわりに、運動場東の市有地を本校がもらったわけです。



「わらじづくりに挑戦」  
ゆとり活動(WEC)の「E」(講座)

国立大付属は抽選入学

受験競争の緩和を図る 文相表明

8年	7年	6年	5年	4年	3年	2年	平成元年	63年	昭和62年					
11 附 中 タ イ ム ス 二 〇 〇 号 発 刊	11 創 立 五 十 周 年 記 念 式 典 記 念 誌 二 冊 発 刊	11 記 念 モ ニ ユ メ ン ト 「 帆 走 す る 雲 」 完 成 ( 皇 城 会 寄 贈 )	4 文 化 ク ラ ブ 復 活	11 く ぬ ぎ 坂 池 田 市 保 存 樹 木 指 定 特 別 株 入 試 開 始 阪 神 大 震 災 に よ る 被 害 文 化 ク ラ ブ 復 活	11 新 プ ー ル 完 成 メ デ ィ ア セ ン タ ー 完 成 研 究 発 表 会 「 学 び の 心 を 育 て る 場 の 創 造 」 ( 評 価 )	10 バ ナ ナ ホ ー ル ・ ル ー ム 完 成 荒 堀 川 南 橋 完 成 電 脳 教 室 完 成	11 テ ニ ス コ ー ト 金 網 張 り 替 え 工 事 完 了 研 究 発 表 会 「 学 び の 心 を 育 て る 場 の 創 造 」 ( 評 価 )	11 菜 園 用 具 倉 庫 改 築 地 学 準 備 室 を 資 料 室 に 改 装	11 玄 関 ホ ー ル 表 彰 状 掲 示 板 生 徒 居 住 地 図 板 完 成 研 究 発 表 会 「 一 人 ひ と り を 生 か す 教 育 の 創 造 」	10 生 徒 用 ト イ レ 全 面 改 装 玄 関 ホ ー ル 表 彰 状 掲 示 板 生 徒 居 住 地 図 板 完 成 研 究 発 表 会 「 一 人 ひ と り を 生 か す 教 育 の 創 造 」	4 文 化 ク ラ ブ が F A ( 自 由 活 動 )	12 藤 棚 完 成 体 育 館 屋 根 葺 替 研 究 発 表 会 「 一 人 ひ と り を 生 か す 教 育 の 創 造 」 「 生 徒 こ ろ え 」 見 直 し	11 青 函 ト ン ネ ル 開 通 本 州 四 国 連 絡 橋 開 通 ソ ウ ル 五 輪	12 屋 上 防 水 改 修 工 事 完 了 防 火 シ ャ ツ タ ー 工 事 完 了 研 究 発 表 会 「 同 和 問 題 に 留 意 し た 基 本 的 人 権 の 精 神 を 高 め る 教 育 の 実 践 」

# わが校70年の歩み③

## 昭和の終り～平成・21世紀へ



「国際交流の幕あけです。」  
神戸のカナディアン・アカデミー・スクールから来校。平成2年10月

### 昭和60年代 転換期

平成につながる昭和六十年代の本校の教育は、人間性の育成、自律性の涵養に増々力が入られました。昭和六十二年には、国立の附属学校ではじめて、文部省の同和教育の研究校に指定され、研究発表会も開催されました。このころから、附属学校の使命についての議論も一層白熱し、新しい教育の創造へ向けて、FA(自由活動)などのさまざまな取り組みが展開されていきました。

### 同和教育の研究指定校に — 国立の附属学校ではじめて —

昭和六十二年十二月四日、近畿の附属連合の特別部会で、本校の二年間の同和教育の取り組みを中心とした研究協議会が開催されました。附属池田キャンパスが主催者となり、テーマは「同和教育に留意した基本的人権尊重の精神を高める教育の実践」。全ての教科の授業の中で、同和教育をどのように展開していくかが実践の目玉の一つでした。研究発表も公開され、小学校

では二年生の道徳(同和)と五年生の社会科の授業、中学校では三年生の国語、二年生の社会と、一三年生の道徳(同和)。これらの中で、テーマを踏まえた取り組みが展開されました。全国の国立大学の附属学校ではじめて、同和教育の指定を受けた本校の取り組みは、三年間の見直しの中で、現在も教科、学年で継続され、国際理解教育の推進という新たな視点も加えられて、位置付けが再構築されて実践が深められています。



個性化・自己教育力の育成  
文化クラブがFA(自由活動)に

「一人ひとりの人権が大切にされていますか」  
昭和62年 同和教育研究発表会



### 世界各国から お客さまが来校

平成八年度より、本校が国際理解教育に本格的に取り組んで二十二年になります。この間世界各国から本校に来校された方は延べ五百人を越えます。平均すると年二十五人。来校目的は学校視察や授業見学、総合学習の講師、学年の行事や

### 「アナタ ダイジョウブ デスカ？」 ビーンリー・ステイト・ハイスクールで

平成八年度から本格的に国際理解教育に取り組んで20年になります。その間、オーストラリアのクィーンズランド州のゴールドコーストにあるキーブラ・ステイト・ハイスクールやプリズペーン近郊のビーンリー・ステイト・ハイスクール等と姉妹校提携を結び、毎年、本校から両校を訪問して交流を続けてきました。キーブラ校には平成8年より8回、ビーンリー校には平成15年度から7月終りまで、の7月終りから8月上旬にかけて11日間の日程で、2年生を中心に20名の生徒が両校の生徒の自宅にホームステイしながら授業を受けたり、「国際共同学習」(一つのテーマについて両国の良さを生かしながら新しいものを造り上げていくコラボレーション学習)に取り組み相互理解を深めています。

### FA活動「ポスターセッション」

一人ひとりの追求内容を模造紙に書き、仲間を募集する。



FA活動  
「スポーツリサーチ」  
屋外で発表しました  
平成元年十一月

世紀を見据えて、教育課程を弾力的に運用し、新しい教育の創造をめざしました。その一つの試みがFA(Free Activity)活動です。FAでは生徒一人ひとりの個性と自己教育力を育てるために、今までの教科や文化クラブ活動の内容や方法にとらわれないで、生徒一人ひとりの発想や追求の過程を大切にしていこうとするものでした。そのために教師の役割は「教えこむ」より「見守る」「励ます」支援者になり、生徒があたかも「すべて自らの力で成し遂げた」と感じるようにしむける(仕組み)ことでした。生徒から出された課題追求のテーマは「自然」「芸術・芸能」「社会」「文化」の四つのブロックに分けられ、百十一ものコースが生まれました。このFAの活動の成果が次の「総合学習」に生かされ、課題追求のテーマ設定や追求の方法を生徒の力で進めるようになっていきました。

18年	17年	16年	15年	14年	13年	12年	11年	10年	平成9年			
三村 寛一	石田 晶大	正木 久仁	富田 晴生	山田 勝久	梶形 公也	井手 稜						
11 祝賀会	7 創立六十周年記念式典・校庭一部芝生化	2 校内窓枠アルミサッシに、磨りガラスを透明ガラスに	8 校内トイレ改修	2 研究発表会「世界の人や自然と共に生きる力を育成する教育課程の構築」	4 校内トイレ改修	3 メディアアセンタ横、防球ネット設置	4 文部省研究開発学校委嘱	3 球ネット設置	11 研究発表会「国際学級設立構想に基づく新しい学校文化の創造」	10 会議システム完成	3 校舎内洗面所二ヶ所新設 メディアアセンタ・テレビ会議システム完成	2 研究発表会「豊かな情報文化を生み出す生徒の育成」
	発足	安倍内閣	ドイッ大会	マラソン大会 IR福知山線事故 サッカーW杯	鳥インフル エンザ・狂 牛病騒動 アテネ五輪	新紙幣発行 新紙幣発行 新紙幣発行	新紙幣発行 新紙幣発行 新紙幣発行	新紙幣発行 新紙幣発行 新紙幣発行	新紙幣発行 新紙幣発行 新紙幣発行	新紙幣発行 新紙幣発行 新紙幣発行	新紙幣発行 新紙幣発行 新紙幣発行	ダイアナ元皇太子妃事故 マザーテレサさん死去 長野新幹線開業

# 国際理解教育の発信基地に

社会の激しい変化や国際化、情報化への対応にいち早く着目した本校の教育は世界や日本の文化の受信・発信基地として、国際理解教育の推進に力を入れることになりました。積極的に異文化を受け入れ、異文化の中に飛び込んでいきました。

国際化、情報化が加速度的に進む日本の社会。本校ではそのような社会の変化に対応する教育も着実に進められています。昭和六十二年には初めての国際交流協会が、大阪外国語大学の留学生を招いて開かれました。さらに、平成二年には、本校生徒と同年代の神戸のカナデアン・アカデミー・スクール(CA)の生徒を本校に招いてスポーツ対抗試合やクラスでの交流会がもたれました。その後CAとはほぼ一年おきに両校が訪問し合い、交流を深めるまでになりました。しかし、本校のオーストラリア研修が本格的に軌道に乗ったのは平成十年に、残念ながら一旦中断



「世界の人々と交流」ヨーロッパ・アジアなどの留学生を招いて 昭和62年10月30日

## 国際交流の原点

大阪外大現大阪大学外国語部の留学生を招いて 昭和六十二年十月三十日、本校の国際交流の原点とも言える交流会が大阪外国語大学の留学生を招いて本校の体育館とクラスで行われました。来校の留学生は、イギリス、タイ、ニュージーランド、中国、韓国、マレーシアなど十五ヶ国、総勢四十



「メディアセンターの授業風景」パソコンの活用

# わが校70年の歩み④

## 個性化・国際化・情報化への対応

# 平成の新生期

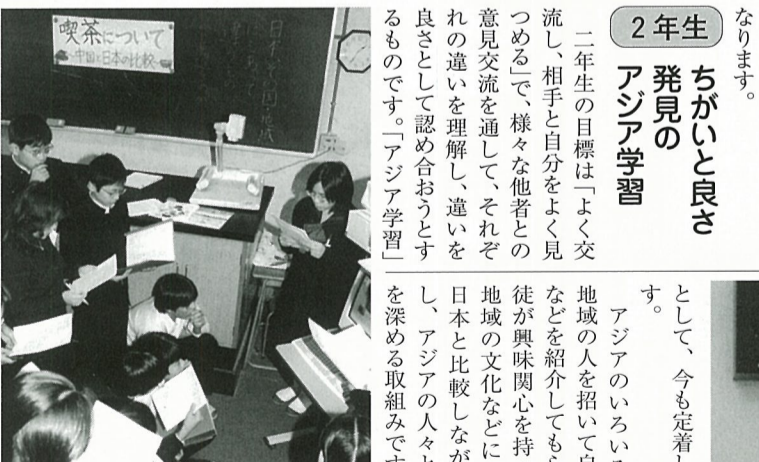
昭和六十年代が四十年間で終わり、世は平成の時代へ移ります。本校の教育では、大きく激しく変化する社会へ対応するために、国際化・情報化・個性化をキーワードに様々な取り組みを展開し成果を挙げてきました。特色ある教育活動は、総合学習週間を中心とした総合学習の取組みです。大切な三つの活動「探求」「表現」「交流」をうまく取り入れ、「自分探しの総合学習」として「生きる力を育てています」。

**1年生** マナーと情報発信、自己表現力をアップ  
期と位置付け、「良く調べ、良く発表する」を目標に、教科で学んだ力を集結し、



「話し方、インタビュー講座」平成17年6月 本校卒業生(40期)でフリーアナウンサーの関根友美さんと

**2年生** ちがいと良さの発見のアジア学習  
二年生の目標は「よく交流し、相手と自分をよく見つける」で、様々な他者との意見交流を通して、それぞれの違いを理解し、違いを良さとして認め合おうとするものです。「アジア学習」



「パソコン、OHCを駆使して発表」平成14年度のアジア学習

**3年生** 厳しさと楽しさを体験 社会参加実習  
三年生は「良く行動し、良く感じ、自分の道を探ろう」がねらいです。総合学習週間に「社会参加実習」という福祉や公共の仕事に重点を置いていきました。これは生徒にとって大変思い出深い学習となりました。

学習終了後の振り返りや報告会では、多くの生徒が働く厳しさと共に使命感や喜びの体験を語っています。総合学習が進路も含め今後の自分の生き方を見つめるという次元まで初めて高まった感がありました。



「みんないい子ですよ!」平成14年7月～保母さんを体験～3年生社会参加実習

## 国立大学の法人化で 5回目の校名改称 大阪教育大学 附属池田中学校に

平成十六年四月一日、国立大学の法人化に伴う校名改称があり、教育学部がとれ「大阪教育大学附属池田中学校」と改称されました。ここで、本校の校名の変遷を整理しておきましょう。大阪第二師範男子部附属中学校、大阪学芸大学大阪第二師範学校池田附属中学校、大阪学芸大学附属池田中学校、大阪教育大学附属池田中学校、大阪教育大学教育学部附属池田中学校と改称されてきました。



「コンニチワ ドウゾヨロシク」中南米の先生方 平成17年

28年	27年	26年	25年	24年	23年	22年	21年	20年	平成19年
平山ちさと	野浪 正隆	辻本 堅二		山川 正信	山原 昭三			三村 寛一	
11	11 5 3	11 10 8 3	12	11 9 8	3	2	5 4 2	7 3 2	11 9
創立七十周年記念式典・祝賀会 池田地区附属学校研究発表会「つなぐ力」をもった子どもの育成	玄関ホール デジタルサイネージ新設 池田地区附属学校研究発表会「つなぐ力、かさなり、ひろがる授業」12年間の「知」の構築をめざして	北館校舎耐震等工事開始 北館校舎耐震等工事完了 International Safe School 認証取得 池田地区附属学校研究発表会「つなぐ力、かさなり、ひろがる授業」12年間の「知」の構築をめざして	防災備蓄倉庫完成 池田地区附属学校研究発表会「つなぐ力、かさなり、ひろがる授業」12年間の「知」の構築をめざして	登下校配信システム完成 2年普通教室に電子黒板生徒用ロッカー入替 池田地区附属学校研究発表会「自立し協同する力を育む」	研究発表会「自立し協同する力を育む」コミュニケーション力を基盤として 小中高の連携開始 グランド防球ネット設置	校舎南館耐震工事完了 研究発表会「個に応じた教育の推進」(三年次) 理科室実験台、調理室調理台入替 芝生植生(二期)	校舎南館耐震工事始まる	研究発表会「個々の生徒の課題・実態に合わせたきめ細かな指導の実践」 プール塗りかえ 体育館耐震工事完了	文化祭は附小の体育館を借りて(体育館耐震工事のため)
熊本地震 大隅良典氏 ノーベル賞	大村智、梶田隆章氏に ノーベル賞 北野新幹線 (長野)金沢 開業	赤崎勇、天野浩、中村修二氏に ノーベル賞 消費税が8%に	富士山が世界文化遺産登録	山中伸弥氏 ノーベル賞 東京スカイツリー開業 第二次安倍内閣発足	東日本大震災 野田佳彦氏 総理大臣に	根岸英一、鈴木章氏に ノーベル賞 菅内閣発足	オバマ氏黒人初の米国大統領に 鳩山内閣発	リーマンショック 小林誠、益川敏英、村修氏に ノーベル賞	防衛庁が防衛省に移行

# わが校70年の歩み⑤

## 池田キャンパス 小中高の連携強化

### 教育研究

国際社会の発展に寄与する人材の育成に  
寄与する人材の育成

この十年は、国際社会の発展に寄与する人材を育成するという大きな目的を達成するために様々な教育研究に取り組みました。特筆すべきは、附属小学校と附属高校との共同研究がスタートしたこと。また、学校安全の取り組みも大きな課題でした。校舎や体育館の耐震補強等の工事が実施され、ソフト面では世界保健機構のインターナショナル・セーフ・スクール、国内のセーフティ・プロモーション・スクールの認証を受け、学校安全に継続的に取り組んでいる学校として評価されました。

# 平成10年代 変革期

平成28年度 大阪教育大学池田地区附属学校研究発表会

**「つなぐ力」をもった子どもの育成**  
～主体的・協働的な学びを通して～

小学校・中学校・高等学校 共同研究

平成28年 11月26日 土

### 附属の使命を果たす共同研究

### 学校安全の取り組み

今、学校安全は教育にとって大きな課題の一つになってきています。本校では生徒が安心して学校生活を送れるよう、校舎等の改修や特別活動の時間やあらゆる教育活動を通じて安全・安心教育に力を注いできました。結果、世界保健機構WHO(等)から大きな評価を受けています。

- 近年の研究テーマ
- 平成20～22年 「個に応じた教育の推進～指導に生きる評価と補充・深化・発展の課題学習を取り入れて～」
  - 平成23～24年 「自立し協同する力を育む～コミュニケーション力を基盤として～」
  - 平成25～27年 「つなぐ力、かさなり、ひろがる授業～12年間の「知」の構築をめざして～」



安心・安全な学校をめざして「インターナショナル・セーフ・スクール」に  
平成26年

### 校舎・体育館の耐震補強工事

この十年は安心・安全な教育環境を希求して、校舎や体育館の耐震補強の工事が突貫工事で進められました。まず、平成十九年から二十年にかけて体育館が改修され、平成二十一年から



鉄骨がむき出しになった改修中の体育館 平成19年

二十二年には南館校舎、平成二十六年には普通教室のある北館校舎が、リニューアルされました。校舎の外壁はスクールカラーである臙脂色と濃紺色に統一されシックで落ち着いた感じに仕上がりました。

International Safe School (ISS) とは、WHO地域安全推進協働センター(WHO-COCC) が推進している学校園の安全推進を目的とした国際的認証活動の一つです。本校は平成二十六年十月十日に日本では五校目(国内中学校では初めての認証を受けました)。

### インターナショナル・セーフ・スクールとセーフティ・プロモーション・スクールの認証

校舎の推進をめざした事業を通じて得られた知見を基に、新たに子どもたちの命を育む学校安全(生活安全・外相予防・犯罪予防・災害安全・交通安全)の推進を目的としたわが国独自のスタンダードモデルとしての枠組みです。平成二十七年三月六日に、大阪教育大学附属池田小学校、東京都台東区立金竜小学校と本校の三校が認証を受けました。

### 国際バカロレア教育の推進 ～本校の教育方針や使命と合致～

本校は、平成二十八年十二月に国際バカロレア(IB)中等教育プログラム(IB-MYP)の候補校になる予定です。今、IBワールドスクールの認定校としての認定に向けた申請段階にあります。IBワールドスクールは、「質の高い、チャレンジに満ちた国際教育に信念を持って取り組む」という理念を共有する学校です。多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探究心や幅広い知識、思いやりに富んだ若者の育成を目的としています。これは本校の教育方針である、「自主・自律につながる学びの基礎・基本の確立」「確かな学力の育成」「自他の文化の理解・共生の心の涵養」にも通じる理念期待しています。

「IB認定校」としての認定教育方針のもと、自由な校風の中で自ら求め学ぼうとする態度を育て、体験的・問題解決的な学習を重んじてきました。さらには国際理解教育を推進し、国際社会の中で異なる文化を持つ人々と共に生きてゆける豊かな国際感覚を養おうとしています。これまでの本校の取り組みをIBの厳格な枠組みの中でさらに確かなものへと発展させることで、生徒一人ひとりがこれから激動する社会に勇気をもって漕ぎ出し、社会に貢献できる人材となることを期待しています。

### 編集後記

「新聞は学校の歴史の生き証人である。」  
初代校長の梶山隆四郎先生は附中タイムスの前身「自治新聞」の発刊に寄せて、「附中の生長に貢献し文化の香りのする新聞に」と願っておられました。タイムスの役割は記録の保存、読者への啓蒙等を担い、様々な情報が満載されています。七十年の歴史、情報を数枚の紙面で扱いきれるものはありませんが、少しでも我が校の歩みと先輩方(生徒や先生、保護者など、すべての関係者)の努力の軌跡を感じ取っていただければ幸いです。

南館校舎の附小側に耐震トラス  
～教官室(1F)、美術室(2F)、音楽室(3F)～  
平成21年